

今在る「古文書」のデジタル化（分散管理）で 日本・世界の明るい未来をつくろう

「読み・書き・そろばん」が地球上で唯一可能な人間という生物

「古い記録」の「保存と活用」の更なる充実が 日本の「各地方が蘇る」大元となる

● 経済産業大臣様「情報化促進貢献個人賞」2021年 受賞：

森松義喬は 大学卒業後「情報処理」等を仕事後に 1980 年後半より大原学園等にて学び、ゆえに中央官公庁アーカイブス等に「情報のデジタル化」の提案、いち早い実現に協力しております。

2021 年群馬県にてそれら [詳細](#) を記載。数件のご推薦もあり 経済産業省様へ提出。

下記 HP 「マスコミ評価の違い」（表の右上 2021 年 10 月）のとおり 経済産業省大臣様から表彰。



<https://www.kmsym.com/iitai/houdai.htm#t5>

● 国立国会図書館（NDL）大量電子化で培った技術力は「国の宝」：

2010 年 平成 22 年 通年予算の 50 倍以上？ 「国家プロジェクト」記録のデジタル化の総予算は約 127 億円。当時 A ランク企業（年商 100 億以上）専門の入札。全国のデジカメ撮影会社は年商 10 億円以下がほとんど故 BC ランクは下請けに。C ランクの国際マイクロは「デジカメ撮影技術を誇っていた」が入札には参加出来ず。しかし 約 7 億円の仕事を「官公需適格組合 当時の [規定](#)」（特例もあり）で 首都圏ソフトウェア協同組合と落札、共同受注。多くの責任を国際マイクロ社が持つ。

始めに デジカメ撮影技術等の伝授を「素人の人材派遣員」に、1 か月でセミプロ級に育てる事に、挑戦。国際マイクロに応募（記録のデジカメ撮影で）して来た人材派遣員の方 約 3000 人から約 300 人を選定して実行、またアプリケーションソフトは撮影中に予測不可能なトラブル等が生じる度に作業中に逐次作成。森松は首都圏ソフトウェア協同組合各 SE 方へ（1000 人以上いる）Microsoft Access 等での機能をお願い。各アプリケーションソフトの作業指示は国際マイクロ担当者等が行う。（[各ソフト](#)の所有者は国際マイクロ）

「NDL の仕様書」にも記されて無い その他様々な対応をこなしながら、徐々に 出来得る「力」となる。最終的には「外注無く対応出来る技術力」等を有した「記録の大量電子化出来る」「世界唯一の会社」と偶然か必然か成り得ました。品質とは無関係な予想だにしない障害も生じ、誠意ある協力者等と共に完納。他のデジタル化業務 落札の各大企業は 5~15 社の下請け（下請けの下請け等は当然に未確認）で対応の様子。

国際マイクロ 2 代目社長の「目の前に現れた事柄を前向きに受けとめる」から生じた非常に貴重な [体験](#)、それらを今後 大きく「活かす方法がある」事に森松は気が付きました。

●「情報の公開」：

です。日本国中の多くの古文書が「ホッタラカシ状態」または「消滅」、デジタル化・分散管理され無い儘に予算が少なく手付かず。国際マイクロは、AI（人工知能）の進展と共に 現代語訳（2種類の対応ソフトが必要）が可能な高画素デジカメ撮影技能、製作する為の情報等、2023年 その「オープン化の準備」。

資本主義・民主主義に若干そぐわないかも知れないが、森松義喬はその準備を進めてきた。公開範囲は原寸400dpi（AIで対応が不可能では無い）、それ以上の非常に高い画像を追求する全国のプロ撮影会社を倒産させ難くする為 等もある。また

【古文書が全国各地域に在るが毎年の様に非常に多くが 人災・天災により 消滅】する最中、

【中国・ロシア・北朝鮮・韓国・台湾 等 軍備・政治経済等が 凄い勢いで 進展】する最中、

【47都道府県の 高齢者・専業主婦・障がい者・若年無業者〔ニート〕等（潜在的労働者 → 顕在化）が、全国の各地域にある古文書のデジカメ撮影等を行う。より多くの日本人・日本政府が 古文書の重要性を理解し新規に国家予算を組み、全国各県のプロが教える仕組みを新たに創ってでも、分散管理を進めよう】
と社内外に森松は2015年ごろから話す様になりました。

一見「真新しい」と思える事を森松が話せば、最初は100人うち100人が不賛成。

（説明不足も有りますが、、） 資本主義・民主主義 故か、国際マイクロの利益のみを追う 為か、反対の声が社内外から未だに途絶えません。

2012年頃： 全国と同業者経営陣からの「協力」は当然にほとんど皆無でしたが

2022年頃： 新規 国家予算が付いた際には「教え代」を貰える事を前提とし、全国8割以上の同業者経営陣に森松が説明・説得（現在まで約10年：時に何度も）して参加の予定です。

● 全国の潜在的労働力 デジタル化の「レベルUP」：

多くのアドバイスの一つに “47都道府県の、特に高齢者へ、1~2か月でのデジカメ撮影教育の合格率は10倍などでは無く100倍以上” との話もありますが森松は「それでも良い」と思っております。

理由は：

「メールの送受信」「You Tube等の使用」「古文書のデジカメ撮影等」を47都道府県で「教育」を行いその合格者を雇用。不合格の人も最初に「同じ教育」を受けられる様にしたいと考えているからです。合否判定は当人にとって重要ですが、不合格者となった人も「デジタル化教育」自体、「やる気のある人間」が様々に次のチャンスに、更なる地域の効率化等に、繋げる事も出来ます。 またそれは、日本中の「やる気の無い人・無いフリをしている人」も含め「大きく影響して行く可能性がある」と思っております。

● 「日本政府に提案」（NDL 大量電子化の技術力等をもとに）：

森松義喬は 歴史の研究者 そして歴史学教授 方々の応援・協力、 またボランティア活動（2件）で“本業”
とのご縁が繋がり、10人以上の 与・野党の先生方 秘書方にも出迎え、様々なアドバイスも戴き、
「全国各地域の古文書をデジカメ撮影（潜在的労働力で）して後世へ」を「政府へ提案」し始めました。
「中央官庁の“受賞”が新規予算化に繋がる」とのアドバイスもあり、様々な方法を進めつつあります。



【日本オープンイノベーション大賞様 2022年・令和4年8月1日 申請】

<https://kmsym.com/bunken/nihon2022.pdf>



【環境省様 2022年・令和4年9月20日 申請】

<https://www.kmsym.com/bunken/kankousyou.pdf>

「新規国家予算化」「規格化」等が成り、日本の古文書の多くがデジカメ撮影等・分散管理されるまで、
森松義喬は健康（意思表示ができて）な限り 決して諦めません。

● 「小企業のみ」だからこそ継続できる「温故知新の実行」：

実現には、国内の「産・官・学・民」、それぞれの協力・少しの妥協 が必要。

「官」の新規予算化、「学」の各地域 古文書の調査、「民」の底力・潜在的労働力
の顕在化、が必要です。

特に「産」のデジカメ撮影技術力を持つ全国各県の指導会社を「この仕事の受注
による倒産」をさせない事 かつ「儲けすぎ無い・損し無い」という、文字通り
「新しい資本主義」という荒技を乗り越える様な事も必要となるかもしれません。

また 大企業の方は過去、「売上・利益 UP 至上主義」ゆえに「金額の割に口だけ
出してとても面倒」という経験があまりにも沢山あります。

しかし今回は、日本経済復活の為に「儲けすぎ無い・損し無い」という考えを
一緒にする集団であれば、自社のプライド・見え等を口にしなければ、そして技術指導力の確保・維持が対応
出来れば、多くの企業が参加しても、実は良いのですが・・・ 大企業が参加の手を上げ、国や県が万一応えれ
ば 各地域の小企業はその大企業の「言いなり」（多かれ少なかれ）です。

実際にシャッターを踏むのは 47 都道府県に在住の選ばれた「潜在的労働者」、

その人達を指導するのは 国際マイクロに直接教育された「各県の古文書デジカメ撮影プロ」、なのです。
大企業が参列する必要性は全く見当たりません。そして大企業を一見味方にしない様な文面を書く人も 日本に



はほとんど皆無です。（大企業でも デジタルカメラや接写台座等 大量に作成・購入できる材料屋は 別）
しかし、日本経済の復活「温故知新の実行」は非常に重大な任務、出来得る人が行わなければなりません。

● 利益：

そしてもし国際マイクロが大きく利益を出す事を望んだら、皆が内々でそれを真似をし「血税」で対応する
このプロジェクトが長く機能し難くなる恐れも生じ、しかし 赤字続きでは会社が維持出来ず本末転倒です。

国際マイクロは 売上向上・利益向上 を 2代目社長森松義喬はここ十数年前より唱ってはおりません。

「絵に書いたような良い会社、」との揶揄があれば「自分の理想とする現実に挑戦」を今 疎かな人の言葉。

国際マイクロが 毎営業日朝 社員で唱和 [私たちの3つの方針](#)の通り、（コロナ禍故 現在 唱和に例外も有り）

【私たちは情報サービス業をとおして「文化の継承と進歩」の

原動力となり より社会的存在価値のある専門技術者集団をつくります】

を今まで通り実行するだけです。

先ずは国際マイクロが「儲けすぎ無い・損し無い」情報を正直に公開。やがて日本経済復活に繋がる作業、
「産・官・学・民」の「産」の「お手本」に成らなくてはなりません。

そして全国各県で「潜在的労働者の顕在化」に協力する指導会社が「税金を沢山？ そこそこ？ 払える仕組み」
をも検討、また「このプロジェクトの実行」が起因して廃業となる同業者（当社を含む）が極力現れない様に
政府の指示する専門家等と話し合い、最終的には「日本政府の考え・ご指示」に従います。

● 日本が向かう方向 ・ 温故知新の実行：

近未来・未来に日本が、不景気に 落ち込もうとも・落ち込ま無くとも、又あらゆる戦争に 巻き込まれても・
巻き込まれ無くとも、 例え 大借金をしてでも、内需拡大してでも、「温故知新の実行」の時。

急いで「知・智の集積」「全国の古文書のデジタル化」（分散管理）を日本人各地域の皆で協力して実現。
そう出来得る力を「日本人は発揮出来る」と国際マイクロは実際に働き確証しています。

「TOPクラスの識字率」を世界中で日本人は誇り、その証拠となる全国各地域の「古文書」。それが
地震・台風等の「天災」・ 保存を疎かに考える「人災」で毎年の様に相当な量が消滅。（紙背文書等含め）
そうなる前の高画素のデジカメ撮影・分散管理が急務。

東日本大震災でも 多くの古文書・記録が デジカメ撮影されずに「海へ」と消えて無くなりました。

「人の命」は最も大切。「人が生きた記録」も次に大切です。

巨大地震は「近々必ず起きる」との理由・データが次々に公表。

「南海トラフ地震」等も 各地域の古文書「デジカメ撮影の完了」を待ってはくれません。

全国各地域 古文書の

◆デジタル化：による分散管理

◆移動：標高 70m 以上の神社等へ

2 点が非常に急がれます。



《江戸時代 寺子屋の図》

● 「教育体制」の 構築 と 継続：

国・政府から新規予算がついた時、日本中の各会社・プロの撮影技術者を プロ中のプロである国際マイクロに集め、ゆくゆく 古文書文字の OCR 変換 (AI 利用) が可能な範囲 原寸 400dpi の高い画像の撮影技術等の「画質の統一」等を行います。その「指導状況」をも「動画撮影」して教育の為に全国に「配信」の予定。おおまかな仕様書は 2020 年に国際マイクロにて出来上がりました。新規予算化が成れば、過去受注約 7 億円のうち 5000 万円以上かけて作成した画像加工等 70 項目以上のアプリケーションソフトの内 数点が全国各地域の「古文書デジタル化」の作業に必要な為に、国際マイクロが全国各地域に無償で提供します。

既に 2020 年・令和 2 年以前に作成を開始した画像参照用ソフト 5G 対応 非フラッシュバージョン (ケーエムアイビュー) [km-i-view](#) の無償提供を森松義喬は 2022 年 5 月に実施。(クリエイティブコモンズ 4・0)

近い将来 古文書 各文字の OCR 変換が益々可能となろう、そして世界に恥じない「高い画像品質の統一」等を先ずは日本国内での[継続体制化](#)。各地域の過去情報・保存活用あつての地方創生、本当のスタート。

各地域の「プロ」の撮影等を含め「教える力」が必要。そして全国各プロへの統一した「指導」が必要。

仕様の統一、原本状態毎に異なる撮影指示の統一・機器の統一 (教え易さの統一) ・アプリケーションソフト毎の操作の仕方の統一・品質の統一 等 その「指導」が出来るのは世界中に国際マイクロ以外にありません。

● 世界も知りたい “国際マイクロの技術”：

アメリカ インターネットアーカイブ社長 ブルースター・ケール氏 及び国内大企業 等、

国立国会図書館 (NDL) 大量電子化をたった一社で行っている国際マイクロの「噂」を聞きつけて、

「NDL 大量電子化を行う[国際マイクロ潮見工場](#)の見学を希望」

当然にお断り。2023 年 それらの「公開・提供」の準備です。

目的は、「温故知新の実行」による「日本経済の復活」、

そして「記録の管理」（Record for the peace）による人類生存の為のルール化、です。

どの古文書？何時以前の？優先順位等 詳細な取決めは有識者と話し合い、最終的には政府のご指示に従います。

● 「やれる人間が行う」：

現在の国際マイクロ前社長は実妹久恵氏（3代目：義喬が脳溢血となり急遽2名代表）であり ところどころ優秀ですが総務部出身の人間です。2023年1月に義喬の1名代表に戻しました。当社の筆頭株主である森松義喬が「脳溢血だから諦める」、という「次元」では無い時・内容だからです。

「全国の古文書の潜在的労働力によるデジカメ撮影指示」は多難を乗り越えた経験者で無ければ出来ません。

そして今、資本主義・民主主義の国では通常は出来ません。「温故知新の実行」の中心で「各地の専門業者に技術指導等が出来得る会社」は世界中で国際マイクロだけです。

● 人間が生きた証・記録のデジタル化（分散管理）：

の「待った」はもうこれ以上出来ません。「情報の保存」に関わり38年が経ちますが、森松義喬は脳溢血ながらも命ある限り「古文書の保存・活用」の大切さを更に更に熟知し、より多くの人に説明・実行して行かなければなりません。私が探せば探す程、国家に新規予算申請できる人には当然に一人も出会えません。

ご協力者は多数現れますが、中心に近い人ほど「本気の人」かの吟味を「本気の人」と行わなければならないでしょう。また その人達と手を組み、「本気でない人」も「本気の人」と成るようにしなければならないでしょう。

★2020年4月 森松義喬は57歳で脳溢血、現在は右手足と言葉が少し不自由位で メール等は可能。

27～57歳まで「朝の散歩とコナミでの水泳等」を土日祝日以外ほとんど欠かさず、しかし軽い脳梗塞を繰り返して脳溢血。 現在はこの文面の作成のように意思表示が可能、偶然・必然を飛び越えての事でしょう。

“不思議なご縁”（人も時期も機会も）、そして見えない“力”、に押されて 感じております。

節税対策で、父 森松幹雄は億円単位の大きな借金、妻と子供達にと 約30～40年前頃から群馬を含めアパートを数件経営。現在その安寧に甘える気持ちは森松義喬が生誕した時より無い様です。

脳溢血後のここ約3年 国際マイクロの会長として 群馬県にて活動中。2023年1月に代表取締役役に復活。

(群馬県と新宿区を息子の運転する車で行ったり来たりです)

5つのHP・[FB](#)等のUPも 群馬発、各大臣様 経済産業大臣様 等の受賞申請も 群馬発、保存の仕事も 倉庫業も合宿もできる別邸作成の準備も 群馬発、全国同業者経営陣 等との情報のやり取りも 群馬発。

★世界中が注目：

知・智の集積（古文書）の管理 を今後 日本がどう対応するのか？

- ・新規国家予算を付けて「記録を管理」するか？
- ・JIS・ISO等 規格化を検討してでも対応するか？
- ・デジタル化して安全に分散管理するか？
- ・地震対策 標高70m以上の所に移動できるか？
- ・現状維持 多くの古文書を今の儘 ホッタラカスか？
- ・国内の潜在的労働者の顕在化に力をどうやって入れるか？
- ・デジタル化に 全国の高齢者等がより興味を持つようになるか？
- ・少子高齢化で各地方が益々小さくなくても仕様が無いか？ など

下の通り 世界中で日本がリード可能

- ① 識字率世界最高峰
 - ② 日本各地域に古文書がデジタル化されずに大量に在る
 - ③ それらが長期保存が可能な和紙・墨で記載されている
 - ④ 高性能な国産デジタルカメラ多種
 - ⑤ 真面目で器用な人材
 - ⑥ 古文書文字の現代語・AIが急速に進展
 - ⑦ それによる地方創生
 - ⑧ 記録の大切さを理解する人材 等
- 条件が整った国は他の国には見当たらない

多くの「古文書を書かれた・遺した」方々が「あの世で見守っている」事を信じて、
今生きている「本気の人」が冷静かつ着実に可能な限り、デジタルカメラの撮影情報等を
公開し、今 日本、のみならず、世界中に遺る「記録の管理」の実現を言動してゆきます。

※ デジタル管理された各記録内容が「正しいか否か」は 当然に各世代の各専門家等にお任せします

2023年6月吉日

株式会社 [国際マイクロ写真工業社](#) 代表取締役 森松義喬 他有志

090-3104-2565

kmsymym1962@icloud.com

h@kmsym.com